

石山

新宿区立戸山小学校

褒め上手のすゝめ

副校長 諏訪部 浩志

「子どもを褒めて育てましょう。」

様々な機会によく耳にしませんか？頭では分かっている、実際は、なかなか難しいものです。最近読んだ本に『子どもを褒めて育てるメリット』を紹介しているものがありました。

果たして、その効用とは？

- ・認められた喜びを感じ、自己肯定感が増し、自信につながる。
- ・期待に応えたことを実感し、さらに頑張ろうとやる気が増す。
- ・自分のことを見てくれているという愛情を感じ、安心感を得ることができる。
- ・褒める側にとっても喜びとなり、心の安らぎを感じることができる。

では、実践に生かしたい子どもを伸ばす上手な褒め方のポイントとは？

＜その場で褒める＞

今は忙しいから後で褒めてあげようと思っても、それでは効果が期待できません。

＜結果だけを褒めない＞

結果もちろん大事ですが、過程や努力する姿を認め、褒めることが大切です。子ども自身が満足できない結果に終わった時でも、努力の過程を認めてあげることで、次へのやる気につながります。

＜日々の小さな成長に気付いてあげる＞

子どもを褒めるチャンスはいろいろあります。社会性・協調性・想像力など、日頃から子どもの小さな変容を見逃さないことが大切です。

＜人と比べて褒めない＞

人と比較して褒めるのは感心できません。ただ、過去の本人と比べて褒めるのは、自信に繋がります。(子ども自身が自分の成長に気付くことができます)

タイミングよく、気付いたことを素直な言葉で伝え、子どもが自信をもって次へのステップを踏み出せるようにしてあげることが大切です。そして、褒める時は、褒めることだけに徹しましょう。「よく頑張ったね！もっと頑張ればもっと良い点がとれるよ！」このような、褒めてはいるものの更なる努力を要求するような言い方は避けたいものです。

書初めについて

書写担当

1月23日から、校内で書写展を開催しています。先日の学校公開では、児童の作品をお楽しみいただけたでしょうか。

1、2年生はお手本をよく見て書かれた硬筆の作品を掲示しています。3～6年生は大きな用紙を使って力いっぱい書かれた毛筆の作品を、掲示しています。

児童同士の作品を見合えるよう、各クラスで鑑賞時間を設定しています。「こんな字を書きたいな」「低学年でも上手だな」など、お互いにより作品が見付けられるよう期待しています。

タブレット端末などのICT機器の普及により、字を書く機会が少なくなってきました。心を落ち着かせ、字と向き合うよい経験になったことでしょう。

学年の窓 5年

5年担任

5年生の子どもたちは、あと数ヶ月で最高学年、6年生になります。毎年この時期になると6年生から5年生へ、最高学年としての役割の引き継ぎが行われています。

6年生がリーダーになって取り組むふれあい班活動では、徐々に5年生が中心になって遊びの内容を考えたり、説明をしたりするようになります。

1月の学級活動では「最高学年に向けて今できること」について考えました。まず、6年生の素敵なお手本を見付け、自分たちが考える理想の最高学年の姿を明確にしました。その後、理想の姿に近付くために、5年生の今からできることを具体的に考え、話し合いました。最後は自分の目標を決め、これから2週間ごとに振り返りをしていく予定です。

6年生と一緒に過ごしていく中で、最高学年としての振る舞いをしっかりと見て、聞いて、学んで、来年度につなげていけるようにしていきます。